

関西の景気ピックス【雇用関連（25年3月）】

- 25年3月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は3.0%（原数値）と、前年比で0.1ポイントの低下となった。前年比での低下は4か月連続。変化の内訳は、就業者数が前年比で9万人の増加となり、失業者は横ばい、非労働力人口は13万人の減少となっている。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、25年3月は1.16倍（季節調整値）と前月比で0.02ポイントの上昇となった。ここ数か月では緩やかな上昇傾向がみられるが、求人の動きに力強さは感じられない。
- 大阪の有効求人倍率について、就業地ベースの数値をあわせてみると（通常は受理地ベース）、就業地ベースは直近で1.04倍と、受理地ベース（1.23倍）に比べるとかなり低く、1.0倍に近い水準となっている。
- 東京も同様に、就業地ベースでみた有効求人倍率は低く、水準、トレンドともに大阪と大きな差はない。受理地ベースでは1.8倍前後の推移となっているが、就業地ベースでみると直近は1.1倍にとどまる。

